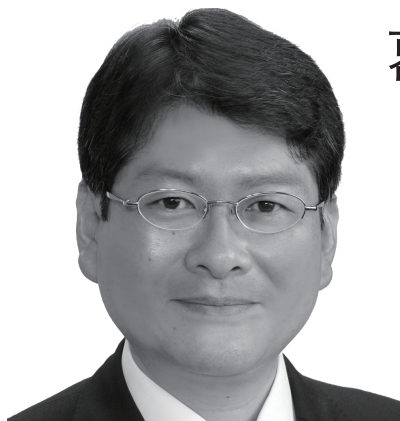


区議会レポート

56号



葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：ミニタウンミーティングのご案内

裏面：第2回定例会・行政視察報告他

2019年6月4日発行

発行

かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137

かわごえ誠一

ミニタウンミーティングのご案内

特別企画：**葛飾の地から国際協力を考えよう**

七大陸食堂リスペクト企画

～古民家「森谷邸」でアラブの家庭料理を囲みながら国際協力を語る会～

1、アラブの家庭料理「マックルーベ」を囲みながらアラブ支援の話を聞く

お話し：斉藤亮平さん JIM-NET 所属

2、インドネシアでのインクルーシブ教育（JICA 委託事業）の話を聞く

お話し：松本美代子さん（一社）チェルク代表理事

◆とき：2019年6月22日（土）18:00～20:00 開場 17:45

◆会場：お花茶屋・森谷邸 葛飾区宝町 1-22-21

◎参加費：800円（食材費として） ※食材準備の関係上、事前に下記メールへお申し込み下さい。

◎問い合わせ・申し込み ◆連絡先 e-mail：info@kawagoeseiichi.com

◆ミニタウンミーティング今回は、お花茶屋の古民家イベントスペース「森谷邸」でアラブ料理を囲んでの国際交流の話を伺う企画をしました。◆区内には発展途上国などの国際支援をしている方が数多くいらっしゃいますが、その方々の活動をぜひ知っていただきたいと思います。◆今回は JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）の一員としてイラクを始めアラブ支援に飛び回っている斉藤亮平さんからアラブの家庭料理をご提供いただき、現地の状況を伺います。◆合わせてインドネシアで幼児のインクルーシブ（特別支援）教育の支援をしている松本美代子さんから事業のご報告をいただき、私たちができることを考えたいと思います。

かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石 8-4 7-1 8

携帯電話 090-2932-7315

e-mail：info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動は Facebook をご覧ください。

かわごえ誠一プロフィール

●昭和38年3月川崎市生まれ ●東海大学第二工学部建設工学科卒 ●立石在住31年 ●一男二女の父親 ●保育園/学童保育クラブ父母会、小中学校PTA、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、保田しおさい学校、三番瀬保全活動などに携わる。
●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団員 ●葛飾区ボッチャ協会会長 ●元都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議会議員選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●かつしか区民連合幹事長 ●現区議会所属：議会運営委員会／総務委員会／地域活性化対策特別委員会

令和元年葛飾区議会第二回定例会開会

◆6月5日（水）より令和元年区議会第二回定例会が開催されます。今定例会では消費税増税に伴い実施される予定の低所得者・子育て世代向けのプレミアム商品券発行経費や、私立保育園整備費助成（仮称：亀有四丁目保育園）などを含む第一次補正予算11億3千万円超が上程されます。

◆基本構想見直しについて 今定例会では葛飾区基本構想の見直しの提案がなされ、区議会全員協議会が開催される予定となっています。現基本構想は平成2年に策定され、これまでの葛飾区の福祉やまちづくり、生涯学習などの施策の基本となってきました。策定から30年が経ち、経済や

人権なども含め社会情勢も大きく変わってきました。今後の社会を見通し、より良い葛飾を目指すため新基本構想策定に向けて、しっかりと議論を重ねていきたいと思います。

◆オリンピック・パラリンピック情報 去る6月1日に組織委から聖火リレーの日程が公表されました。葛飾区では2020年7月20日に聖火リレーが実施されることになりました。当日聖火ルートは葛飾区→江戸川区→墨田区→荒川区です。（区内ルート詳細は未定です）◆議員失職について 立花孝志氏が堺市長選に立候補したため、公選法の規定により5月26日付けで区議会議員を自動失職となりました。

区議会総務委員会 行政視察 報告

◆去る5月7日から9日にかけて葛飾区議会総務委員会の行政視察が行われました。ここにご報告いたします。

◆倉敷市の観光振興施策について

一日目は岡山県倉敷市の観光振興政策のヒアリングと美観地区の視察をしました。倉敷市では観光振興プログラムを策定し、観光振興に向けた施策を展開しています。倉敷市の観光の課題は観光客の滞在時間が短い、遠方からの来訪者が少ないなどがあるとのことですが、現在、歴史や伝統、ものづくりをテーマとし、地域の魅力を高める観光資源の創出などの取り組みを進め、岡山県内や瀬戸内など広域の自治体間で連携をはかり回遊性を作り出しているとのこと。倉敷市は伝統美観保存条例に基づき美観地区を整備しています。美観地域ではカフェや倉敷のジーンズ専門店など多様な店舗が出店してましたが、まち並みを守るために厳しい規制がかけられているとの事でした。歴史を守りながら観光に活かしていくためには不断の努力が隠されていると感じました。



倉敷市美観地域のまちなみ

葛飾区でも観光には同様の課題を抱えており、柴又地域の重要な文化的景観を活用していくためにも、参考にしていきたいと思っています。

◆松山市のまつやま圏域共創ビジョンについて

二日目は愛媛県松山市の「まつやま圏域未来共創ビジョン」について伺いました。

松山市では少子高齢化が進む中、持続可能な地域づくりを目指すために松山市を中心に中予地域の伊予市、東温氏など6つの自治体や大学等が協定をむすび、広域の行政連携や産学官の連携を進めています。そこでは防災、

消防、保育園、図書館、空家対策、オープンデータなど自治体の枠を越えて広域での連携が進められているとのことでした。また、市内の7つの大学・短大とまちづくりをはじめ、地域課題の解決に向けて協働が進められており、大学との連携について多いに参考になりました。

◆松山市の文化振興計画について

視察三日目は、個別に松山市の文化芸術振興計画について伺いに行きました。昨年度実施されたばかりの計画ですが、計画の考え方の他、策定までのご苦労や今後の方向性などを伺うことができました。

文化・芸術をなぜ振興するのか、なぜその計画が必要なのか、市役所の中でも長い間議論があったとのことですが、文化・芸術が個人のモノとして閉ざすのではなく、その創造性がまちづくりや観光、福祉、教育など様々な分野で活用が広がり、認識され、計画づくりが進んだとのこと。そこには道後オンセナートなど実際の活動が成果を上げてきたことも後押しになったとのことでした。この計画策定後、昨年は愛媛大学との連携事業で松山ブンカ・ラボを立ち上げ、シンポジウムや市民参加の対話プログラムなどを実施し、計画の意味を浸透させ、人を育てる取り組みや、人をつなげる取り組みに力を入れているとの話を伺いました。

葛飾区でも以前から文化芸術振興の方針を明確にすべきとうたっていますが、なかなか進まない状況があります。しかし、松山市のように議論の末、計画ができあがった話を聞くと、あきらめず必要性を丁寧に伝え、理解を深める取り組みが大切だということを感じました。



松山市役所前にて